

ぐりーんず greens

第28号

2021.1 発行

理念: 地域社会に信頼される病院としての心温まる医療と急性期・高機能・先進医療との調和

基本方針

- ・本学の理念である「至誠と愛」に基づき、皆さまに信頼される病院を目指します。
- ・患者さんのプライバシーを守り、一人ひとりの権利を尊重します。
- ・つねに最先端の医療技術と知識を用いて、安全で良質の医療を提供します。
- ・患者さんに合った最善のチーム医療を行います。
- ・中核病院として地域の診療所・病院等との連携を推進し皆さまの健康を維持・増進します。



病院長ご挨拶



今回は令和3年 最初のぐりーんずへのご挨拶となります。

謹んで新年のお祝いを申し上げます。

また、コロナ禍のおり、市民の方々を始め、多くの方に暖かいご援助を賜りましたことを深く御礼申し上げます。

さて、皆さまにとって令和2年はいかがな一年でしたでしょうか。

令和2年は、世界中が新型コロナウイルス感染症の危機に直面した年でもあります。インフルエンザと違って、特効薬やワクチンがなく、ウイルス自体の性質もいまだ解明されていないなかで、「三密を避けましょう」、「マスクをつけましょう」や手洗いやうがいの励行などの古典的な感染症対策が効を奏した年でもありました。

集団感染の共通点は、特に「換気が悪く」、「人が密に集まって過ごすような空間」、「不特定多数の人が接触するおそれが高い場所」です。換気が悪く、人が密に集まって過ごすような空間に集団で集まらないことでクラスターを回避することは、20世紀初頭にインフルエンザが世界中で大流行し、多数の死者を出した教訓に基づいています。いまだ、ワクチン効果が定かでない状態では、しばらくはこのような古典的な予防法に頼らざるをえません。しかも一年を超えて続くコロナ禍の中で、今までと違った医療体制の供給が求められているだけではなく、人心も次第に荒廃してゆきます。

今までと違う社会だけでなく病院の体制を確立していかなければならないためにさまざまな混乱が生じております。このような混沌とした中で、皆様には多大な御迷惑をお掛けしていることを、紙面をお借りして深くお詫び申し上げます。

しかし、新しい年の初めでもあり、この様な経験がコロナ後の将来に良い糧となることを祈念してやみません。

最後に、今後とも皆様方の益々のご健勝とご活躍を祈念するとともに、ますますのご支援・御理解を賜わりますことをよろしくお願い致します。

令和3年1月
病院長 新井田 達雄

整形外科—地域の皆さまのために—

八千代医療センターのホームページをご覧いただいたことがございますか？

—地域の皆さまのために—

最初に目に入るこの言葉を、皆さまへの最初のご挨拶とさせていただきます。

整形外科 科長 水谷 潤

さて、令和2年9月1日付で八千代医療センター准教授、整形外科診療科長を拝命いたしました、水谷 潤と申します。生まれも育ちも名古屋で、名古屋市立大学を平成3年に卒業、関連病院で研修の後、20年間名古屋市立大学の教員として脊椎外科診療へ従事してまいりました。国内留学で当時の最先端の脊柱変形治療や低侵襲医療を学び、University of California, San Francisco (UCSF)への留学では、専門の脊柱変形に対するさらなる研鑽を積むことができました。このたびご縁があり、八千代医療センターでお世話になることとなりました。

右も左もわからないまま八千代へやってまいりましたが、幸い素晴らしいスタッフに恵まれ、メンバー全員にも感謝しているところです。

1：わたしの専門領域

私は整形外科の中でも“せぼね”を専門としております。その中でも脊柱変形手術に携わり、体に大きな負担を伴う脊柱変形手術の低侵襲化を目指して参りました。XLIFという手術法を併用することで、低侵襲化を実現し、名市大時代には初期導入限定施設に選定されその責任者や全国指導を務めたり、また、頸椎人工椎間板(X-JAPANのヨシキがアメリカで受けた手術です)の我が国への導入でも、全国の指導者を務めておりました。現在ではこの2つの手術を当院で受けることができ、八千代医療センターが手術見学指定施設となっております。

また思春期特発性側弯症に代表される側弯症手術も積極的に携わってまいりました。このコロナ禍の中、古巣名古屋から毎月3人ほど、私の手術を希望され、とおく八千代まで来院されておられます。来たる4月ごろまでは月3人ほどのペースで名古屋の患者様の手術が予定されています。

また、低侵襲治療としましてはスポーツ選手の腰椎椎間板ヘルニアの内視鏡手術も名市大時代にはたくさん経験を積み、アマチュアのトップアスリート(三菱名古屋野球部、JR東海野球部、ラグビートップリーグホンダヒート選手、県大会上位レベルの運動選手など多数)の復帰のお手伝いをしてまいりました。

腰部脊柱管狭窄症、頸椎症性脊髄症、椎間板ヘルニア、脊柱側弯症、腰まがり、首さがりなど“せぼね”の病気で困りの際にはぜひ八千代医療センターへお越しください。いつでもお待ちしております。

2：八千代医療センターの整形外科医療

整形外科は救急医療とは切っても切り離せない診療分野でございます。私が着任して以降、整形外科外傷は、基本的に断らないようメンバー全員が頑張っています。その理由は、当院は救命救急センターであること、災害拠点病院であること、そして何より、公的病院が存在しなかった八千代市において、当院が地元医師会と住民の皆様方からの要請と支援を受けて設立されたという経緯がございます。この原点を忘れなければ、脊椎や関節の変性疾患以上に、地域の皆さまのため、外傷治療に積極的に携わることは当院の使命です。

“近隣の皆さまのため”に、大学病院として提供しうる高度医療を、決しておごる事なく提供できるよう努力し、近隣の皆さまへの整形外科医療を当院で完結できるよう努力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど何とぞよろしくお願い申し上げます。

日本整形外科学会(代議員、専門医、脊椎内視鏡技術認定医)
日本脊椎脊髄病学会(評議員、指導医、ACRワーキンググループ)
日本脊椎インストゥルメンテーション学会(評議員)
日本成人脊柱変形学会(評議員)
日本側弯症学会(脊柱アライメント委員会:頸椎班班長)
日本MIST学会(評議員)
日本低侵襲脊椎外科学会(幹事)

American Academy of Orthopaedic Society: Member
Cervical Spine Research Society (American): Member
Cervical Spine Research Society (Asia Pacific): Founding Member, Educational Committee
SOLAS(Society of Lateral Access Surgery):JAPAN Committee Chair



水谷(後列左から3人目)とスタッフ



当院におけるせん妄ケア



～入院前からその方らしい生活を継続できるように支援しています～

当院では2018年4月より入退院支援センターを開設し、予定入院の患者に対し入院や治療についての説明と入院に伴う様々なリスクアセスメントを行っています。治療と回復の過程で、せん妄と転倒転落は大きな阻害要因となります。今年度の前半期において全入院患者数における65歳以上の患者の割合は45%でした。せん妄は特に高齢者において入院による生活環境の変化や治療や病状の進行による身体状況の変化によって引き起こされるため、せん妄と転倒転落のリスクアセスメントは、入院後のケアにつなぐために重要なアセスメントと捉えています。そこで当院では、入院前の面談時にリスクアセスメントを行い、入院や治療についての具体的な説明を行うと共に、せん妄についてあらかじめ理解してもらうように映像を用いて説明を行っています。せん妄の発生は患者本人だけでなく、家族にも大きな影響を与えます。特に今年度はCOVID19対応のため入院中の面会を制限しています。そのため、入院後に患者の状態が変化したことを家族が実際に見て体感することができず、家族の混乱を招いているケースが見受けられます。入院前からリスクを知ってもらうことは、入院中のケアを充実させるだけでなく、退院に向けて家族に介護サービスやリハビリ継続の準備をしてもらうきっかけにもなっています。

そして、病棟に入院されてきた患者さんには、その後も手術やバイタルサインの変化、環境の変化など、何か状態や状況が変わったときには、繰り返しリスクアセスメントを行い、予防ケアを継続します。せん妄は身体の障害に合併する精神障害ですので、症状をコントロールすること以上に、その原因を丹念に見極め、取り除き、緩和することが重要であると言われています。

当院では、せん妄、認知症高齢患者へのケアの向上、充実を図るべく、2017年より看護部にせん妄・認知症ケアリンクナース連絡会を設置し、各部署のリンクナースが自部署のケアの普及を図っています。リンクナース会は、月に1回開催され、各部署から1名の看護師がリンクナースとして参加し、それぞれが部署を越えてせん妄ケアや認知症ケアの状況について共有し、議論する場となっています。そこでは、患者さんの尊厳を守るために私たちができるケアについても考えます。

そこで切り離させないのが身体拘束の問題です。身体拘束はせん妄を助長させる重大な因子ですが、医療者の「安全のためには仕方ない」という考えで、これまでは、漫然と継続させる光景が当たり前になっていました。しかし、今、当院では毎日、多職種で「切迫性」「非代替性」「一時性」の3原則の観点から、その患者さんに身体拘束が本当に必要なかを写真のようなテンプレートに沿って検討しています。最近では、看護師が、落ち着かなくなる際の患者さんの言動をよくみて、そこに対応することで拘束をせずに過ごせること、また、拘束をするしなにかかわらず、アクシデント数は変わらないことを実感しています。今後も、せん妄患者さんの苦痛を緩和し、欲求を満たすケアを探求し、実践し、できる限り、その方らしい生活を継続できるように支援したいと思います。

令和3年1月
入退院支援室 田原 昌子
看護部 山内 典子



お知らせ

ご紹介の際は、紹介状(診療情報提供書)をご用意頂き、事前のご予約をお願い致します。

医療機関からの診察・検査連携のご予約(地域連携直通)

TEL 047-458-6543 FAX 047-458-6545

受付時間 平日 9:00～17:00・土曜日 9:00～13:00

※日曜、祝日、第3土曜日、創立記念日(12/5)、年末年始(12/30～1/4)はお取扱していません。

※時間外の場合はFAXを送信して下さい。翌受付時間内にご連絡させていただきます。

※予約日時・医師等の変更を希望される場合は前日までにご連絡下さい。



医療連携マネージャー(医師)

緊急を要する当日(日中)のご紹介は、紹介診療科が定まっている場合は従来通り当該診療科の医師が対応します。担当診療科の特定がしにくい場合は、「医療連携マネージャー」が電話対応をさせていただきます。ご対応は地域連携直通電話の受付時間内とさせていただきます。

検査連携(医療機関から申込)

検査連携のご依頼は地域連携直通電話の受付時間内とさせていただきます。

応需検査:CT、MRI(単純)、RI、XP、マンモグラフィ、骨密度測定、セファロの画像検査

患者さんからの診察のご予約(予約センター)

TEL 047-458-6600

受付時間 平日 9:00～16:00・土曜日 9:00～12:00

※日曜、祝日、第3土曜日、創立記念日(12/5)、年末年始(12/30～1/4)はお取扱していません。

※予約日時・医師等の変更を希望される場合は前日までにご連絡下さい。

やちよ夜間小児急病センター(中学3年生までの小児対象)

TEL 047-458-6090

受付時間 毎日 18:00～23:00

医療相談は行っておりません。ご予約の必要はありません。受付時間内に直接ご来院下さい。

入退院支援室 地域連携部門 新任紹介

入退院支援室地域連携を担当させていただいています唐橋淳浩と申します。

当室には急性期医療から回復期・慢性期医療へのスムーズな橋渡しの役割を担うため、退院調整看護師、ソーシャルワーカー、地域連携担当事務員が在籍しております。

かかりつけ医の先生や地域の医療・福祉保健施設等がそれぞれ持つ機能を十分に発揮するためには、「病診連携」、「病病連携」などの緊密なネットワークが不可欠です。

患者さん、ご家族が安心して医療を受けられ、医療関係者が「お互いの顔を確認できる」ように、より確かな連携ネットワークの構築に努め、満足のいく医療環境の実現を図ります。

緊急を要する当日(日中)のご紹介は、紹介診療科の医師、担当診療科の特定がしにくい場合は、「医療連携マネージャー(医師)」が電話対応させていただきます。

当センターとしては、受入体制を整え入院、外来受診にお越しいただく方々に安全に診療を受け入れられるよう、状況に応じて日々体制の検討を重ね診療にあたっています。

皆様から信頼される病院として今後も鋭意努力を重ねてまいります。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



東京女子医科大学

八千代医療センター

TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY YACHIYO MEDICAL CENTER

〒276-8524 千葉県八千代市大和田新田477-96

TEL 047-450-6000(代表)

FAX 047-458-6545

入退院支援室 TEL 047-458-6543(直通)